

St. Luke's International University Repository

第8回日中看護学会 (The 8th China-Japan nursing conference) に参加して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐居, 由美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/450

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



国際学会・セミナー参加報告

1. 国際助産師連盟第26回大会 (International Confederation of Midwives 26th Triennial Congress) 参加報告

2002年度ミセスセントジョン記念教育基金の助成を受け、2002年4月14日～18日にかけてオーストリアのウィーンで開催された国際助産師連盟 (ICM) 第26回大会に、母性看護学・助産学の教員5名 (堀内・有森・片桐・江藤・桃井) で参加した。堀内が研究室を代表して「Developing Successful International Collaboration among Governmental and Non-Governmental Organization and a School of Nursing」というテーマで口頭発表を行った。内容は①本学ならびにWHOプライマリーセンター看護/助産開発センターとしての紹介、②当研究室が過去6年間に関わったパラグアイ・ガーナ・ブラジル・マラウイからの助産師を通して得た活動や連携の経験から、今後、国際活動の連携が効果的に行われるための提言をした。フロアからは様々な言語で質問が出され、テーマに沿った有意義な意見の交換が行われた。

会期中の講演や研究発表は700題以上におよび、その内容は、従来の学会でとりあげられるテーマの枠にとどまらず、より臨床的な視点や新たな試みを取り入れた“new perspective”にあふれるものであった。まさに本学会スタッフが、参加者らに学会を通して得ることを期待した“food for thought and discussion”が得られ、帰国後、それらのfoodsを徐々に消化しつつ教育・研究に活かしている。またそこで新たに形成された多国の助産師との関係が現在進行形で進んでおり、今後の連携による実践・教育・研究への還元が期待できるといえる。

(母性看護・助産学：桃井 雅子)

2. 第8回日中看護学会 (The 8th China-Japan Nursing Conference) に参加して

ミセスセントジョン記念教育基金の助成をうけ、中国北京市で開催された第8回日中看護学会 (2002年11月3日～2002年11月6日) に参加する機会を得た。日中看護学会は日本看護協会と中華護理学会が共同で開催 (隔年) しており、第8回日中看護学会では、「看護の生涯教育と実践における新たな試みと研究」がメインテーマであった。本学からは基礎看護学香春知永助教授・横山美樹講師・大久保暢子助手が共に訪中し、演題発表および学会参加を行った。本学会の参加者数は、中国側58名、日本側100名であり、中国側からは、北京市のみならず香港・西安・南京市など地方都市からの参加もみられた。本学からは横山美樹講師が、「基礎実習におけるフィジカルアセスメント技術、基礎看護技術の活用の実態」というテーマで研究発表を行った。発表終了後、中国側参加者 (中国南京市の病院の教育担当看護師長) から即座に質問があり、中国においても看護技術の習得に高い関心が向けられていることがうかがえた。

また、中国側の発表で特に興味深かったのは、香港理工大学護理学院主任博士汪国成教授によってなされた「看護師の実践体験に基づく中国独自の“看護の定義”の探求」というテーマの講演であった。汪教授らは、質問紙法によって収集された看護師の記述内容の分析から、中国独自の看護の定義を提唱しており、分析には中国の伝統的な学説である「情・理・知・行」認識モデルの視点が加えられていた。また、中国古来の治療法を専門とする中医 (中国医学・漢方医学) 看護学に関する発表もあり、“中国独自の看護”に関する研究が盛んに行われていたのが非常に印象的であった。

(基礎看護学：佐居 由美)